

愛媛県警幹部による裏金事件のいっそうの究明 についての申し入れ書

2006年4月6日

愛媛県議会日本共産党議員団

各党議員団・各会派御中

日頃のご活動に敬意を表します。さて、このたび、新聞、週刊誌等で報道されておりますように、愛媛県警察の捜査資料流出に絡んで、2002年の殺人死体遺棄事件で犯罪捜査に協力し謝礼を受け取ったとされる情報提供者が実在しなかったり、実際には謝礼を受けていないのに受け取ったように記載されるなど、事実と異なる捜査報告書が作られていたことが明るみに出ました。

これは、愛媛県議会が真剣な議論の結果、全会一致で3月16日に採択した「愛媛県警察における捜査費の厳正な使用を求める決議」が県警に対して「心からの反省」を求め、「県民の新たな疑念を呼び起こさない誠実な対応」を要請したのをあざ笑うかのような、許しがたい暴挙と言わなければなりません。

県警は、2月24日発表の内部調査結果で、1998年度～2004年度分の捜査費について、「組織ぐるみの不正の事実はない」と結論していましたが、2002年度の犯罪捜査報告書に虚偽の記載があったことは、組織的な不正の存在をうかがわせ、さらには、捜査費が裏金に回った疑いも濃厚です。

また、少なくとも、内部調査結果の内容が不正確であり、外部による徹底した調査の必要を示していると言えるでしょう。

そもそも、今回の新聞、週刊誌等による独自の取材は、捜査費の支出先とされた捜査協力者に直接当たり、捜査協力の有無、捜査費支出の有無を確認したもので、本来は、監査の際に行なわねばならない内容ですが、捜査協力者の保護などを理由とする県警の協力拒否と監査妨害のため、実施できなかったものです。しかし、捜査協力者の保護は言い訳に過ぎません。なぜなら、守秘義務のある監査委員こそ捜査協力者保護の条件を満たしていること、県捜査資料流出にみられるように県警こそ捜査協力者保護に欠陥があったことなどが今回はっきりしたからです。

また、裏金作りのために多数の架空協力者が捏造されていて、真正の協力者

には捜査協力費は支出されていないか、個々の捜査員警察官が個人で協力者に謝礼をしているなどの証言があることから、実際には「裏金作りを隠蔽するために協力者保護」を唱えている公算が大です。

さる3月県議会では、各党各会派の間で考え方の違いはあったものの、特別監査の請求、特別委員会の設置、県議会決議として警察に要請、100条委員会の設置などをめぐって、県議会が真剣な模索と議論を行なった結果、先に述べた県議会決議を可決しました。これが、踏みにじられたこんにち、さらに強い決意で、県議会が県民の付託に答えることが重要と考えます。

一部には、これまで長い時間と費用をかけて調査や監査を行なってきたおり、県警が本来業務に一刻も早く専念できるようにすることが大事とする意見もありますが、本来の警察業務が円滑にすすむためには、この裏金事件の究明をあいまいに終わらせて疑惑がいつまでもくすぶる状況は最悪です。そうではなく、このさい長年のウミを出し切り、真の再発防止策を講じてこそ、愛媛県警の再生と業務遂行が可能となるのは明らかです。

そこで、県議会が県民の付託に答えるために、下記について貴議員団が取り組まれるようご要請申し上げます。

記

一、今回問題になっている2002年度の捜査費について、警察内部調査以外の調査を進めることができるよう、ご検討ください。私ども日本共産党議員団は、このさい、100条委員会を設置すべきであると考えますが、県議会各派が一致できる方法について論議し合意したいと望んでおります。

一、そのために議会運営委員会などで取り上げていただくよう、ご検討ください。

以上